

【公報種別】 特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
【部門区分】 第 1 部門第 2 区分
【発行日】 令和 7 年 7 月 7 日(2025.7.7)

【公開番号】 特開 2025-36584(P2025-36584A)
【公開日】 令和 7 年 3 月 14 日(2025.3.14)
【年通号数】 公開公報(特許)2025-047
【出願番号】 特願 2024-229470(P2024-229470)
【国際特許分類】
A 63 F 7/02(2006.01)
【FI】
A 63 F 7/02 310 C

10

【手続補正書】
【提出日】 令和 7 年 6 月 27 日(2025.6.27)
【手続補正 1】
【補正対象書類名】 特許請求の範囲
【補正対象項目名】 全文
【補正方法】 変更
【補正の内容】

20

【特許請求の範囲】
【請求項 1】

外枠と、前記外枠に開閉可能に設けられた本体枠と、前記本体枠に着脱可能に設けられた遊技盤と、を備える遊技機であって、

前記遊技盤は、遊技球が流下可能な遊技領域が形成される遊技板と、前記遊技板の表側に設けられる区画手段と、前記遊技板の裏側に設けられる後手段と、を少なくとも有し、
前記区画手段の内側に前記遊技領域があり、前記区画手段は、前記遊技領域の外側に位置するように設けられており、

前記区画手段の表面側の少なくとも一部に後方の前記遊技板の外側に向かう方向に下り傾斜する傾斜面が形成されており、

30

前記区画手段の表面側のうち前記傾斜面よりも前記遊技領域に近い側に凹状の表面窪み部が形成されており、

前記後手段の表面側の少なくとも一部に凹状の裏面窪み部が形成されており、

前記傾斜面と前記表面窪み部は、前記遊技板の外側から前記遊技領域に向けて略直線上に配置されるとともに、前記裏面窪み部は、前記遊技板を正面視したときに、前記直線上に重なるように、あるいは該直線の近傍に配置され、

前記裏面窪み部は、前記遊技板の裏側に設けられる前記後手段のフランジに形成されている

ことを特徴とする遊技機。

【手続補正 2】
【補正対象書類名】 明細書
【補正対象項目名】 0004
【補正方法】 変更
【補正の内容】
【0004】

40

しかしながら、上記した遊技機では、遊技板を運搬する際に、先鋭な角状に形成される縁部と作業者の手とが接触して作業者に不快感を与えるおそれがあるとともに、遊技板の把持位置を知らない作業者の手が遊技領域内の障害釘や役物等と接触して、障害釘が変形したり、障害釘に錆が生じたり、役物等が破損するおそれもある。

【手続補正 3】

50

【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】0005
【補正方法】変更
【補正の内容】
【0005】

本発明は、このような事情に鑑みてなされたものであり、その目的とするところは、遊技盤の運搬を安全に行うことができる遊技機を提供することにある。

【手続補正4】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】0007
【補正方法】変更
【補正の内容】
【0007】

10

上記の目的を達成するため本発明は、
外枠と、前記外枠に開閉可能に設けられた本体枠と、前記本体枠に着脱可能に設けられた遊技盤と、を備える遊技機であって、

前記遊技盤は、遊技球が流下可能な遊技領域が形成される遊技板と、前記遊技板の表側に設けられる区画手段と、前記遊技板の裏側に設けられる後手段と、を少なくとも有し、前記区画手段の内側に前記遊技領域があり、前記区画手段は、前記遊技領域の外側に位置するように設けられており、

20

前記区画手段の表面側の少なくとも一部に後方の前記遊技板の外側に向かう方向に下り傾斜する傾斜面が形成されており、

前記区画手段の表面側のうち前記傾斜面よりも前記遊技領域に近い側に凹状の表面窪み部が形成されており、

前記後手段の表面側の少なくとも一部に凹状の裏面窪み部が形成されており、

前記傾斜面と前記表面窪み部は、前記遊技板の外側から前記遊技領域に向けて略直線上に配置されるとともに、前記裏面窪み部は、前記遊技板を正面視したときに、前記直線上に重なるように、あるいは該直線の近傍に配置され、

前記裏面窪み部は、前記遊技板の裏側に設けられる前記後手段のフランジに形成されている

30

ことを特徴とする。（例えば、段落「3304」～段落「3351」を参照）

【手続補正5】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】0009
【補正方法】変更
【補正の内容】
【0009】

このように、本発明の遊技機においては、遊技盤の運搬を安全に行うことができる。

40

50